

広島国際学院高等学校

同窓会報

【第6号】

2005年6月1日発行

発行者

広島国際学院
高等学校同窓会

(旧広島電機大学附属高校)

広島県安芸郡海田町

蟹原2-8-1

TEL 082-823-3401

印刷/赤坂印刷株式会社

周南市馬神 854-1

TEL 0834-66-0001

同窓会の絆を深め：

同窓会、学園の一体的発展を願う



会長 岡田 民男

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。各位におかれましては、公私に亘りご活躍のことと拝察申し上げます。今年三月一日、三百五十名の新入会員を迎え、会員数も三万人を突破致しました。このように年々同窓生の皆さんの増加に似合った会としての方向付けを行うことは当然であります。同窓会の目的は「会員相互の親睦と母校の発展に寄与する」ということであり、卒業生の皆様が気軽に集える場を持つことと、具体的には母校在校生への、物心両面の支援により一体的な発展が大切であり、関係役員、会員各位のご尽力により年々発展はしておりますが、

今後益々力を注いで行かなければならないと考えております。今後、同窓会会員の皆さんの絶大なるご支援を節にお願い申し上げます次第です。

(昭和三十年電気科卒)

退任にあたって！

多くの方々との

出会いに感謝！！



前校長 鶴井 淑弘

縁あってお世話になった広島国際学院高校を本年三月退任致しました。四十年間の長きに亘って多くの方々からご指導やご鞭撻を頂き、大過なく退任できましたことを心より感謝しております。

長い教師生活を振り返って見ますと、数々の思い出が甦り感激ひま。としおのものがありません。私達の育った世代は、戦中戦後の厳しさが求められる教育の時代であり、教育環境、教育条件はもとより、物心両面において耐乏生活を余儀なくされておりました。

しかし、戦後のめざましい経済成長により、教育環境、教育条件も少しづつ整備されつつありました。私が教職に就任した昭和三十一年は本校が教育基盤を整え、発展途上の時でした。広島電機高校は、工業社会に貢献できる優位な人材育成を目標に、工業高校としての地歩を固め、電気科、機械科に加え新たに電子科、自動車整備科、工業経営科、工業計測科が充実拡大されました。そして高校進学率の上昇、第一次ベビーブームの中で三千人近い生徒数を数える大規模校に発展しました。施設の面では、一号館（旧本館）が完成したばかりで体育館、講堂もなく全校の朝会はもとより、入学式、卒業式は校舎の庭に紅白の幕を張り、実施したのを懐かしく覚えております。

教室の中に柱

そして驚いたのは、殆どどのクラスに七十名に達するクラスもあり、木造の古い校舎は教室の真ん中に柱があり、生徒の顔が見えにくかった場面を今でも鮮明に覚えております。

充分な教育環境に恵まれていない中でも、先輩教師や多くの方々からご指導を頂き、支えられながら、この頃の多くの生徒とのかわりや奮闘が、今ある私の教育の原点になったように思えます。その後、学校の諸施設も充実してきました。

昭和四十一年には二号館（旧新館）昭和四十五年には体育館（兼講堂）、昭和四十八年には三号館（旧女子部校舎）が相次いで新設され、同年には温水プールも完成し、施設の充実振りがから本校の大発展を見る思いがしました。少子化が進み、公立高校の教育改革が進められる中で、本校は個性化、国際化、情報化に対応する教育プログラムづくりを進め、現在は普通科、工業科も総合システム科に改編し、生活指導、進路指導の充実を図っております。

今後更に改革が進められ、県民、地域の人々の要請に応えられる教育づくりを期待しております。しかし、忘れてはならないのは「ローマは一日にしてならず」で、ここまでくるのに基盤づくりにひたすら情熱を注いできた先人達、そして多くの良き理解者、協力者があればこそと思っております。

職場で得た財産は：人との出会い

私の現在があるのも多くの方々に支えられたからだと思っております。私が教職で得た財産は「人との出会い」：この一言に尽きると

私自身四十一年間に多くのの方々とのめぐり合わせがあり、その折々に支えられて今日があったと熱い思いが溢れ、感謝の一念であります。先輩教職員にご指導頂き、同僚教職員からも支えられ、生徒からも学びました。そして関係する多くの方々とお会い、支えられました。とりわけ同窓会の皆様にはお会いする機会に恵まれ、総会や各地域で行われるイベントなどで、会員各位のいつも変わらぬ母校への熱い思い、同窓生相互の強い連帯感、そしてパワーフルな生き方に触れる度に、校長として心新たに教育づくりに取り組むよう、意欲を喚起されました。

また、校長として在任中は、同窓会の役員をはじめ会員の皆様には、本校に対し物心両面にわたってご支援頂き、紙面をお借りし改めてお礼と感謝を申し上げます。

四月から新しい態勢で教育づくりが始まっていますが、今後とも広島国際学院高校の伝統が連綿として受け継がれ、同窓生から信頼される学校として益々発展することを期待し、念じております。



昨年10月中国四川省棒球隊来校で、熱烈歓迎する鶴井校長（左着席）

広島国際学院高校 校長就任挨拶



校長 長野 政義

このたび、鶴井淑弘校長先生の後を引き継ぎ校長に就任いたしました。

私は昭和四十一年四月に本校に奉職して以来三十有余年、生徒と関わりながら自分なりの豊かな教職活動ができたことに満足いたしました。

その間、二十年間は学校の管理運営にも携わることになり、過分な重責に日々奮闘していたところでした。

さらに今年度から、創立七十八年目を迎えるという長い歴史と伝統を持つ本校の第九代校長に就任することはまさに身に余る光栄であると共に、その任の大きさに身の引き締まる思いでございます。

ふり返ってみますと、本校が幾多の苦難を乗り越えてこま繁栄できたのは、歴代の校長先生方の卓越した見識と指導力は勿論のことではあります。同窓会の皆様の強力なご支援があつてのことでもあります。

このことについて、まずはお礼を申し上げさせていただきます。

さて、少子化が叫ばれ各学校は特色ある校風、選ばれる学校をめざしての取り組みが行われています。

しかし、少子化という大きな流れには、大海に漂う小舟のようなもので、各学校の間のランク付けはいつそう明確化されてきています。

さらに、景気の悪化が家庭の経済を圧迫し、授業料負担の大きな私立はより厳しい状況に追い込まれてきているのが実情であります。

社会に： 認知される学校に

しかし、このような状況の中にあつて、本校の取り組みは社会に認知され期待される学校になりつつあると確信しています。

幸いに本校には、学園、同窓会、PTA、地域関係者等の心強い支援と、目的に向かつて一丸となつて取り組む教職員集団があります。

これは、本校の誇りであり前進するための大きな力になつていけるものと思つています。

今「人との様々な触れあいから呼び起こされる感動が成長の原点である」との教育指針をより具現化する取り組みを進めていきます。

「感動する心」「感動を得る努力」を教育方針に掲げ、すべての教育領域において、いかに感動が得られる取り組みができるかを考えています。

本校に入学してくる生徒たちが、高校三年間でより多くの感動を得てほしいと念じつつ微力ながら努力していく決意であります。

同窓会のみならず、ご発展をお祈りいたしますと共に、今後とも今までの以上のご協力・支援を切にお願い申し上げます。

平成十六年度 同窓会総会・懇親会盛大に開催

副会長 奥田 幸一

昨年度の同窓会総会並びに懇親会が、平成十六年六月十二日（土）に広島市民球場に隣接したメルパルク広島で開催されました。

総会は午後六時から開催され、会長挨拶に続いて議長選出後、前年度の活動報告、決算報告、次年度の活動計画、予算案がそれぞれ承認され総会は終了しました。

その後、場所を懇親会場に移して華やかに懇親会が開催されました。

岡田会長の挨拶、来賓挨拶のあと、乾杯の音頭でなごやかな雰囲気の中で懇親会が行なわれました。

会場では、来賓、支部、クラブ、卒業年度別にテーブルが設けられ、先生を囲みながら又、懐かしい旧友を見つけては握手を交わし再会を喜んでおられました。

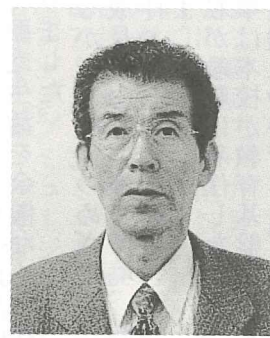
総会並びに懇親会は、数年前より毎年六月の第二土曜日に開催することが決まっております。一年後に、また「会おうや」を合言葉に次回の再会を互いに誓いあいながら、固い握手で懇親会を終わることができました。

出席者百三十余名の中には、県外からわざわざご参加下さった方々も多く、盛会であったことは今後の同窓会の繁栄に繋がるとの意を強く致しました。

終わりに、総会並びに懇親会の準備をして戴いた校内幹事やスタッフの皆様にお礼を申し上げます。

(昭和四十三年電気科卒)

本校教頭に就任して



教頭 荻野 次夫

大学を卒業後本校（旧広島電機高等学校）に勤務して早三十七年の歳月が流れました。

教諭として、生徒たちと向き合い、様々な人間ドラマと出会いながら「国語」の教員として、ひたすら教壇に立ってきました。



3月1日、第56回卒業証書授与式（卒業式）が行われました。又その前日には我等同窓会に迎う仲間383名の入会式が体育館で行われました。

役員就任に当って



副会長 藤田 準 一

本同窓会には幹事として十数年参画し、会の運営にたずさわってききましたが、この度副会長にご選出頂き身に余る光栄ですが、と同時に不安もいっぱいです。

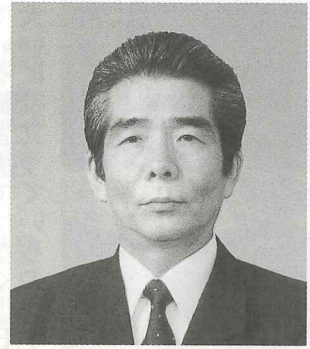
諸先輩、会員各位のご支援を期待してこの職責をお引き受けすることを決心致しました。

学園創立以来七十八年の伝統ある我が学園の発展に微力ながら寄与できますよう：また会長をはじめ会員諸兄のお荷物にならないように、同窓会発展の為全身全霊を捧げる覚悟です。

皆様方のご指導ご鞭撻を賜りたく伏してお願い申し上げます。

(昭和四十一年機械科卒)

佐々木克巳氏 大臣表彰受賞



昨年十月、会員同窓生であり、幹事を務める佐々木克巳氏が、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

その受賞祝賀会が去る三月二十日(日)広島リーガロイヤルホテルに於いて約三百人の参加者を迎え盛大に行われました。出席者には藤田県知事、衆参両院国会議員をはじめ県会議員、市議員、県・市を代表する各界著名人の方々がお祝いに駆けつけました。

代表挨拶要旨

「佐々木克巳氏のこの度の受賞は、永年に亘り生活衛生の向上並びに、社交飲食業界と地域社会発展のため尽力された功績が認められたものであり、心から敬意を表するものであり、ご本人の榮譽はもとより関係者にとつてもこの上ない慶びであります。つきましては同氏の榮譽を深く称え、多年の労苦をねぎらい且つ、更なる活躍を祈念するものであります。」
佐々木氏はその祝辞に対し次のような謝辞を述べました。
この度は、はからずも平成十六年度生活衛生関係功労者とし

て、厚生労働大臣表彰を尾辻大臣より拝受し、大臣より心温まる激励の言葉を頂きました。この身に余る榮譽はひとえに各位のご支援、ご指導の賜物と心より深く感謝しております。これからも一層精進を重ね、業界はもとより地域社会のため、微力ながら一生懸命努力する積りです。

(尚、佐々木克巳氏は、昭和四十一年機械科卒業です)

役員就任挨拶

副会長 奥田幸一

この度、副会長に選任いただき身に余る光栄と感ずるとともに、その責任と使命の重大さに身の引き締まる思いであります。これまで、立派に同窓会を発展させてこられた諸先輩の並ならぬご努力に学び、これを継承し、新たな気持ちで諸問題に取り組みなければならぬと肝に命じているところでござい



同窓会を取巻く環境の変化により課題も山積し、解決が急がれております。昨今、微力ではありますが、一杯努力してまいります。皆様方の一層のご支援助とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
(昭和四十三年電気科卒)

鬼原 積

私は昭和四十六年に自動車整備科第一期生として卒業しました。担任は中岡先生でした。将来は自動車メカニックになろうと勉学？に励んでいたのですが、ところがその自動車ではなく、ガソリンのいらぬ「自転車」に興味を持ち、選手として高校時代はインターハイ、国体と多くの大会に出場しました。卒業後、競輪選手で走るプロフェッショナルとして十六年間走り続け、引退後は自転車専門店を開業し、今度は選手を乗せるプロとして頑張っています。

さて、タイトルの本題に入っていきますが、昨日から二十九日迄の十七日間、アテネオリンピックの地ギリシャ・ピクテで行われたオリンピックピックに参加しました。世界各国の精鋭が集う最高の舞台において、我が自転車日本代表選手が世界に挑む真摯な姿と活躍ぶりは、テレビやその他マスコミでご存知だと思いがすが、自転車競技チームスプリングで感動を与えてくれました。これまでに勝ち負け、栄えあぐや選考会に打ち勝ち、栄えあぐで当日最高のコンディション

アテネオリンピックに 強化スタッフとして出場

に持つて行けた事は選手の素晴らしいさと、スタッフの努力がマッス直前にウオームアップの終わった選手の自転車をレース用のホイール、ギヤ等を手早く確実にセットしレースに臨むわけでミスは競技そのものを台無しにし、選手もそれで終わりになるのです。

ごさ、最後に聖火の点火には、さすがにオリンピックは激し、参加できたことに私を感じました。のは高校時代の熱血先生の中岡教諭、自転車部を日本一に育てて下さった熱血漢先生、三宅監督をはじめ、心血を注がれた皆さん方、私も熱く燃え続けていきます。すでに選手達は北京に向けて走り出している事は言うまでもありません。最後に元気な身体と、感謝を忘れない心を与えてくれた両親にこの紙面を借りてお礼を言いたいと思います。
(昭和四十一年機械科卒)



アテネ選手村で杉山愛選手と...

広島国際学院大学硬式野球部 全日本大学 野球選手権大会初出場

昭和四十二年同大学開学と同時に硬式野球部が発足した。昭和の時代は野球部存続が危ぶまれたときもあったが、スポーツ推薦試験、強豪高校からの入部者が増え、上位を狙えるチームに変わっていった。そして初優勝は電機大学時代の平成八年秋季リーグ戦、西村作田、山口(現オリックス)投手をはじめプロ野球選手を輩出する強豪チームになった。しかし全大会へは中四大会代表決定戦に破れ逃したが、今春七十九回目のリーグ戦において三度目の優勝をし、念願の「全日本大学野球選手権大会」に初出場を果たした。又、本校卒業生・隠善智也君(平成十五年S卒)が最優秀選手とベントナインに選ばれた。詳細、速報はホームページでご覧下さい。

雨天練習場整備される

硬式野球部部长
竹上 力

平成十六年九月に観覧席、本部席として雨天練習場が完成しました。雨天練習場の大きさは、投手三人が投球練習できる位の大きさです。

マシンを二台使ったのバッテリー練習もできます。かなり大きい雨天練習場とは言えませんが、大きくなくても雨天練習場という設備のある高校は県下でも珍しい程です。高校のグラウンドは、硬式野球部専用ではありません。放課後はライト方向ではソフトボール部、センター方向ではサッカー部、レフト方向ではゴルフ部、トラックは陸上部という状態でグラウンドの利用は凄いい状況です。当然外野を含む全体練習では野球部以外のクラブが終了してからです。現在の野球部員は約百名が活動しています。練習は幾つかの班に分けてする必要があり、雨天の時だけ活用している練習場ではなく、日頃も大いに役立つています。



(雨天練習場) (野球場本部席)

また野球部だけでなく、雨天のとき、体育の授業で使用することもありますが、やはり他のクラブには羨ましいことだと思います。野球部の選手一人一人が、専用球場でなくても立派な設備をつくって頂いたことに対し感謝の気持ちを忘れず、尚いっそう努力してくれることを期待しています。

(昭和五十年卒)

新幹事のご紹介

卒業生との橋渡しとして頑張ります。よろしくお願ひします
高山 頌弘 (たかやまのぶひろ)
総合システム科 2組卒業



荒木 祐介 (あらかきゆうすけ)
普通科 6組卒業



三反田 由貴 (さんたんだゆき)
普通科 5組卒業



活躍する 吹奏楽部

本校吹奏楽部は全国レベルでも上位にランクされる有名校です。去る四月二十九日(みどりの日)には広島駅南口地下広場において、恒例のコンサートが開かれました。★A列車で行こう★刑事&アクションミュージック★サウンドオブミュージック★「石原裕次郎」の名曲に挑戦するなど、多彩な曲が二・三年生総勢六十八名で二回にわたり演奏され、にぎやかなステータスが繰り広げられ、大勢の観客を魅了しました。今後の演奏活動や各種大会の日程は、直接本校に問い合わせるかホームページで検索し、沢山の会員の方に視聴して頂きたいと思ひます。

学園短信

事務局長 土居 茂

去る二月二十七日、本校体育館において同窓会入会式を行いました。会長、副会長および常任幹事の出席のもと執り行ない、今年度は三・八三名の新会員を迎えることができました。

会長から歓迎の言葉があり、記念品を贈呈致しました。卒業生総数は三〇、五〇〇名にものぼります。翌、三月一日には地元海田町長や中学校関係者、同窓会より会長や多数の来賓の方々の出席のもとに卒業式が盛大に行われましました。

生徒達はそれぞれの進路に向かって元気に旅立ちました。今年度の進路状況は、大学・短大への進学が六三・七%、専門学校へ二〇%、就職七・八%、その他八・六%でありました。特に国公立には十三名が合格しております。

就職においては、景気の上向き傾向もあり、大手のマツダやその関連企業、そしてデオデオ、エルピーダメモリの内定が目立ちました。四月八日には入学式が挙行され、四六六名の新入生を迎え、少子化の影響で定員割れの高校もある中で、本校は定員を上回る入学者に嬉しい悲鳴を上げております。

また近年の受験者数は二千名にも達し、人気の高さを物語っております。★ クラブ活動等の情報についてはホームページをご覧下さい。★ 「広島国際学院高等学校」で検索

索して頂ければ簡単にアクセスできます。(昭和四十一年電気科卒)

会員名簿について

前号でもお知らせしましたように今年度初めに、会員名簿編集委員会が構成され、一九九五年来十年振りに卒業生全員の会員名簿が刷新され、この度出上がりました。会員を始め関係各位に配布する準備の段階で、新たな問題が生じ配布できなくなりました。会員名簿は特定会員であれ配布すれば「個人情報保護法」に抵触し、罰則が適用されるためなのです。現在同委員会において善後策の検討が進められています。今後の配布方法につきましては同窓会本部(本校)の校内幹事までお問い合わせ頂くか、ホームページでご覧頂きたいと思ひます。

編集後記

幹事長 杉原弘皓

『継続は力なり』と諺にあります。創刊号発行の折、第五代同窓会長の永山先生に、原稿執筆を依頼した時に「必ず続けてください」と励ましの言葉を頂いたこともあり、何とか継続し第六号を発行できました。しかし、どのような記事を会員の皆さんは求めておられるのか、いつもそればかり考えております。おひとりお一人のご意見が頂きたいのです。ご要望をお聞かせ下されば勇気百倍です。よろしくお願ひ致します。(昭和三十四年電気科卒)